

京都教育大学FDニュース

No.95

2021年8月23日

京都教育大学FD委員会

本学におけるFD活動の一環として実施しております「授業アンケート」へのご理解とご協力を感謝申し上げます。

今回のFDニュースでは、「2020年度後期授業アンケート実施調査結果」についてご報告いたします。

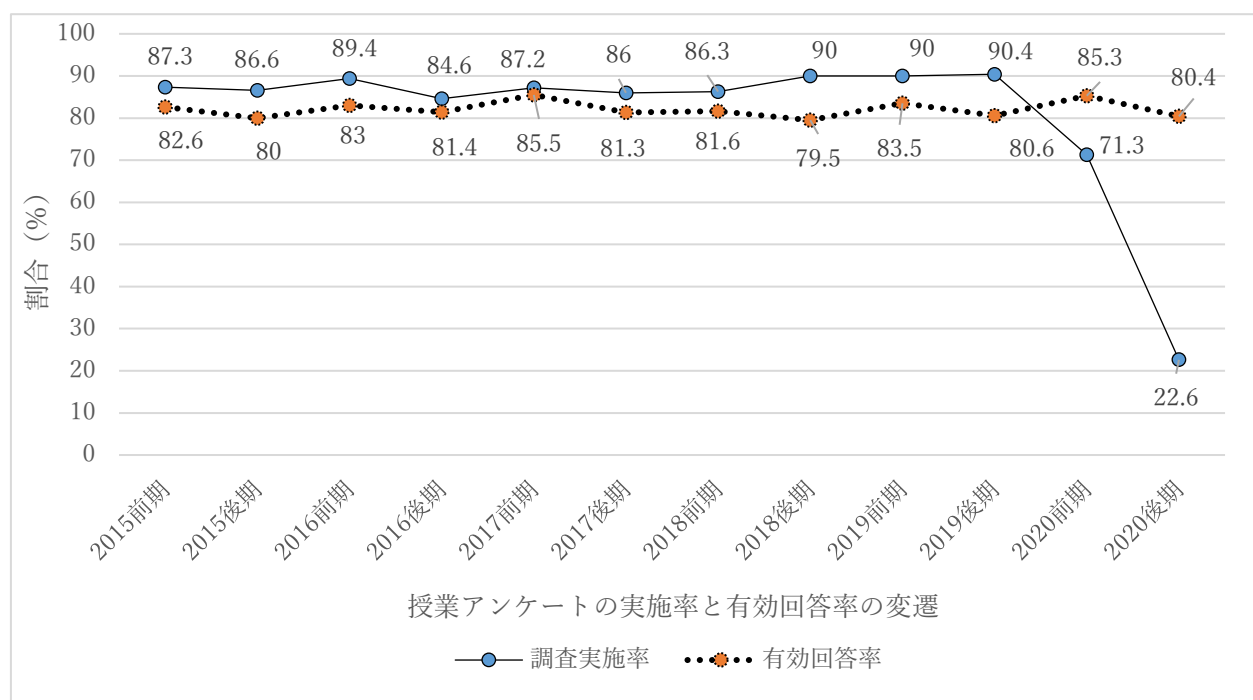
1. 調査の概要

実施期間：2021年1月7日（木）～1月13日（水）

対象科目：受講登録者数6名以上の全科目

実施科目数：79 未回収科目数：271 全白紙科目数：0（対象科目数：350）【実施率22.6%】

回答者数：2,786名 実施科目履修者数：3,465名（総科目履修者数：13,256名）【有効回答率80.4%】



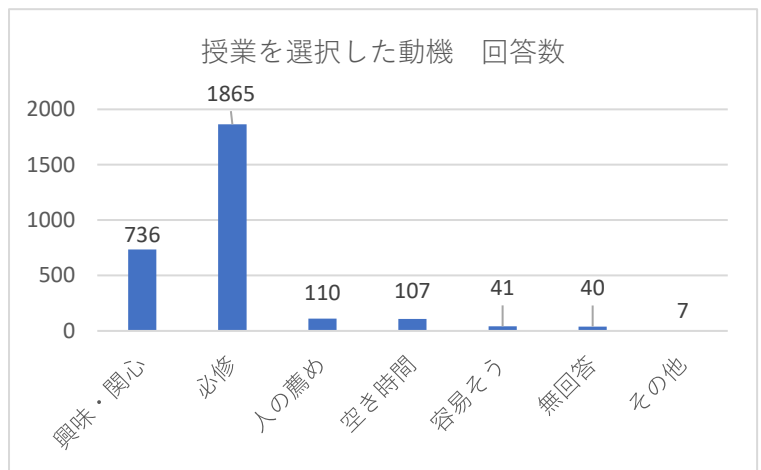
2021年1月13日に京都府に緊急事態宣言が発令されたことに伴って、1月14日より対面授業の中止に伴いオンライン授業が実施されることとなったため、2020年度後期の授業アンケートは1月13日実施分で打ち切られることとなりました。その結果今回のアンケート実施率は22.6%と、コロナ禍のためここ数年で最も低かった2020年度前期の実施率71.3%からもさらに大幅に低下しました。ただし有効回答率は80.4%とやや低調ながらも例年並みを維持していることから、母数は少なくともアンケート結果から、学生の授業への姿勢や授業者の課題などを或る程度は読み取ると考えられます。

2. 結果の概要

(1) Q1. 「授業を選択した動機について」

項目ごとの回答数は右表のとおりです。

回答数の割合は、「必修」67%、「興味・関心」26%、「人の勧め」4%、「空き時間」4%、「容易そう」1%となります。2019年後期はそれぞれ、65%、24%、4%、4%、2%、2020年度前期は、64%、26%、4%、4%、1%でしたので、授業選択の動機には大きな変化はありませんでした。「必修」、「興味・関心」、あるいはその両方が、本学における授業選択の主たる動機となっています。



(2) Q2～Q15の結果について

以下は、Q2～Q15を肯定的回答の割合の多かった順に並べ直したものです。(カッコ内は回答項目です。)

Q3. これまでの出席状況 (全出席、1～2回欠席、3～4回欠席、5回以上欠席、無回答)

Q7. 授業の満足度 (満足、やや満足、やや不満、不満、無回答)

Q6. 評価する資格があると思うか (とても、やや、あまり、ほとんど、無回答)

Q14. 授業の進む速度 (進度) (とても適切、適切、やや不適切、不適切、無回答)

Q11. 授業は体系的であったか (とても、やや、あまり、ほとんど、無回答)

Q8. テーマ・領域に興味を覚えたか (とても、やや、あまり、ほとんど、無回答)

Q5. 意欲的に取り組んだか (とても、やや、あまり、ほとんど、無回答)

Q12. 説明はわかりやすかったか (分りやすい、やや分りやすい、やや分りにくい、分りにくい、無回答)

Q9. 教員になる意欲を高める取り組み (とても、やや、あまり、ほとんど、無回答)

Q15. 理解や反応に合わせた進行 (とても、やや、あまり、ほとんど、無回答)

Q10. 授業は難しかったか (難しい、やや難しい、やや易しい、易しい、無回答)

Q13. テキストのレベル (難しい、やや難しい、やや易しい、易しい、無回答)

Q2. シラバスを参考にしたか (とても、やや、あまり、ほとんど、無回答)

Q4. 授業時間外の学習 (2H以上、1H以上、1H未満、ほとんど、無回答)

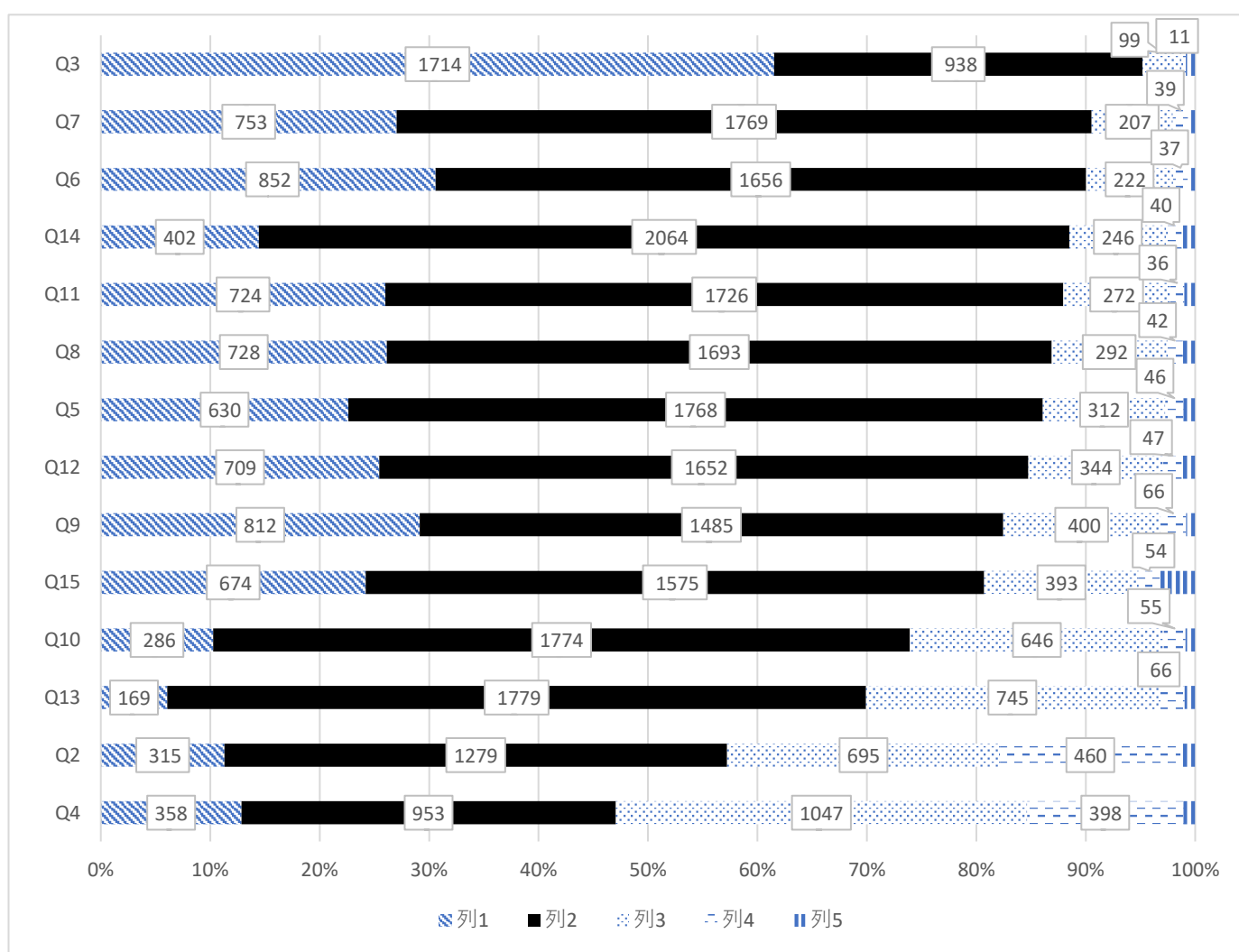
それぞれの回答数をまとめたものが、次頁の図です。(グラフ内の数字が回答数です。無回答については回答数を省略しました。) 列1～5は上記の回答項目を指しており、もっとも左の回答項目が列1、もっとも右の回答項目である無回答が列5です。したがって、列1と列2が設問への肯定的回答となります。

表が示すように、Q4. 授業時間外の学習を除くすべての質問項目に関して、肯定的な回答の割合が否定的な回答の割合を上回りました。

出席状況に関しては、全出席および1～2回欠席しただけの学生が全体の95%に達しています。2020年度前期は1～2回の欠席に留まった学生は98%となっていますが、前期は授業のほぼ半分がオンラインで実施

されたため、前期よりも出席率が下がるのはやむをえないことでしょう。他方で2019年度後期では1～2回欠席までの学生は91%であり、一部の授業だけからの判断とはなりますが、学生の授業参加への意欲は比較的高い水準で維持されています。

肯定的な回答の割合が二番目に多かった授業の満足度に関しては、90.5%で、近年で最も高い数値であった2020年度前期(90.4%)を極めてわずかながらも上回りました。また2020年度前期から選択肢が変更された「授業の進む速度」に関しても、2020年度前期の88%に対し89%と微増しました。その反面、「授業は体系的であったか」、「テーマ・領域に興味を覚えたか」という授業の内容に関する問いに関しては、それぞれ肯定的回答の割合が88%、87%で、2019年度後期の89%、89%、2020年度前期の89%、88%に比して微減しています。ただし繰り返し述べるように母数が少ないので、こうした多少の数字の増減に大きな意味を認めることはできません。少なくとも大学全体としては、コロナ禍という特殊な状況下でも、学生が一定程度は満足できる授業を引き続き提供できているという評価はできるかと思えます。



反対に肯定的な回答の割合が低いのは、「授業時間外の学習」、「シラバスを参考にしたか」などでした。シラバスに関しては、授業選択の主たる動機が「必修の授業だから」なので、「シラバスを参考にして授業を選んだ」という問いに否定的な回答が多くなるのは当然だと言えます。「授業時間外の学習」は、1時間以上学習した学生は47%に留まりました。2020年度前期は60%でしたが、前期ではオンライン授業での課題を授

業時間外の学習に含める学生もいたと考えられますので、近年の平均が44.7%であることを踏まえると、これまでと同程度であると考えられます。学びの本質的な面白さを体験させたり、学生の知的好奇心を駆り立て、主体的な学習に向かわせるような手立てや工夫が重要であると思われま

(3) Q4.授業外の学習時間とその他の質問項目のクロス集計結果について

2020年度前期より、Q4.授業外の学習時間と他の質問項目のクロス集計を行っています。下は、その結果のレーダーチャートです。



出席状況、授業の満足度、テーマへの興味、体系的、わかりやすさ、進度、いずれに関しても、授業時間外に1時間以上学習している学生の方がわずかですが全体平均は高く、授業時間外での学習と授業参加への意欲との間には好循環の関係が成り立っていると推察することができます。既に見たように、本学では授業時間外での学習時間が1時間に満たない学生が5割以上を占めていることから、授業外での学生たちの学習を促す取り組み、工夫が授業者には求められていると言えます。

ただし、授業の難易度に関する設問に関しては、2020年度前期と同様に、1時間以上学習している学生の方に授業が難しいという回答が目立って多くなりました。授業の難しさが学生の自主学習を促しているとも、難しさが学生の知的探求心を駆り立てているとも考えられ、正確な理由は判然とはしませんが、適度な難しさは学生の学習意欲を刺激するとも言えるかもしれません。

FD委員会では今年度もアンケート調査を実施するとともに、授業改善のための研修会を企画しています。今後ともご協力くださいますよう、お願いいたします。

内容について、問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：中（委員長）、小山（副委員長）、樋口、荻野、東村
 （事務担当：河原田、村田、長谷川）